

内科学第二

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	2人 (2人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	5人 (2人)
診療助教	3人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	1人
医員	11人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	18人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	7人
合 計	48人

1-2 教員の異動状況

須田 隆文(教授)	(H 8.10.1~H19.3.31助手;H19.4.1~H24.6.30 助教 H24.7.1~現職)
佐々木茂和(講師)	(H13.6.1~現職)
中村祐太郎(講師)	(H19.4.1~H25.3.31助教;H25.4.1~H26.3.31特任講師;H26.4.1~現職)
小林 良正(助教)	(H 5.4.1~H19.3.31助手;H19.4.1~現職)
森田 浩(助教)	(H 9.9.1~H19.3.31助手;H19.4.1~現職)
藤澤 朋幸(助教)	(H25.4.1~現職)
川田 一仁(助教)	(H25.5.1~現職)
古橋 一樹(助教)	(H27.4.1~現職)
鈴木 勇三(特任助教)	(H27.4.1~現職)
松下 明生(診療助教)	(H23.4.1~現職)
山下 美保(診療助教)	(H25.11.1~現職)
山崎 哲(診療助教)	(H26.4.1~現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	喘息肺における濾胞性ヘルパーT細胞の分化誘導の仕組みと喘息病態での役割の解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	最近発見された新しいヘルパーT細胞であり、アレルゲン特異的IgE抗体産生において中心的な役割を担う濾胞性ヘルパーT細胞 (Tfh細胞) に着目して、肺においてTfh細胞が分化誘導される仕組みを解明し、さらに喘息モデルマウスを用いて、Tfh細胞がどのように喘息の病態に関わっているかを明らかにし、本疾患の新たな病態の解明と新規治療ターゲットを探索する。
	(4) 当該年度内の進捗	ダニ抗原 (HDM) 喘息モデルの作成し、同モデルと正常マウスの肺組織および縦隔リンパ節におけるLDCサブセットであるCD103+LDC、CD11b+LDCを高純度で単離できることを確認した。さらにHDM喘息モデルにおける縦隔リンパ節でのTfh細胞の単離同定および局在解析を行った。
	(5) 翌年度の方針と予想	卵白アルブミン(OVA)喘息モデルから単離した各LDCサブセットとOVA特異的に反応するT細胞受容体を持ったOT-IIトランスジェニックマウスを用いてex vivo共培養アッセイを確立し、Tfh細胞の分化誘導能を比較検討する予定である。
	(1) 研究・開発等のテーマ名	慢性好酸球性肺炎(CEP)の長期肺機能低下因子の探索
2	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	CEPは比較的稀でステロイド治療が奏功する疾患であるが、繰り返す再発や難治性喘息の合併によりステロイド依存性の病態を取ることが多い。そのため長期的な管理が重要になるが、CEPの再発や長期の肺機能低下に関わる因子は全く不明であった。
	(3) 前年度までの状況	CEPの初回ステロイド治療期間に関する前向き研究により、短期ステロイド治療(3ヶ月)は6ヶ月間のステロイド治療と再発率に差がなく、同等の有効性を示すことを明らかにした(Eur Respir J 2015, 被引用数6)。
	(4) 当該年度内の進捗	慢性好酸球性肺炎133例の後方視解析を行い以下の点を明らかにした。1)再発の予測は困難なこと。2)ステロイド治療後も31.6%の症例に肺機能障害が残存していた。3)再発は長期的な肺機能低下と関連しないが、発症時肺機能低下がステロイド治療後も残存する長期肺機能障害と関連していることを明らかにした。
	(5) 翌年度の方針と予想	論文投稿中である。
	(1) 研究・開発等のテーマ名	細胞性免疫誘導型樹状細胞は結核菌に対して強力な免疫原性を有する
3	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	本研究では結核患者から細胞性免疫誘導型樹状細胞(DC1)を作成し、DC1ワクチンの免疫応答の解析を行うことにより結核感染に対する有用性を検討した。
	(3) 前年度までの状況	DC1の誘導に成功し、通常型の樹状細胞に比し表面抗原の発現に有意な差は認めなかったが、明らかに強いIL-12p70産生能を有していた。
	(4) 当該年度内の進捗	DC1を患者のリンパ球、結核抗原と培養した結果、強力なIFN γ 産生能、NK細胞の誘導能および制御性T細胞の抑制能を有していた(原著論文: Int J Tuberc Lung Dis. 2017. ;21(5):523-530)。
	(5) 翌年度の方針と予想	今後は、無血清培地を用いることで臨床応用が可能となるか進めていく予定である。さらに他薬剤や免疫療法との複合療法の検討を進める予定である。

4	(1)研究・開発等のテーマ名	細胞内寄生菌に対するハイブリッドエピトープ長鎖ペプチドを用いた新規ナノ粒子ワクチンの開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	細胞障害性T細胞エピトープのみでの同細胞の誘導には限界があるため、ヘルパーエピトープを連結した長鎖ペプチドを作成し、PLGAナノ粒子を担体とした細胞内寄生菌に対する新たなワクチンを作成する。
	(3)前年度までの状況	PLGAナノ粒子の二重乳液法による調整を実施した。
	(4)当該年度内の進捗	細胞障害性T細胞エピトープを結合したPLGAナノ粒子を作成し、エピトープ単独よりも強力な免疫誘導を確認した。
	(5)翌年度の方針と予想	今後はハイブリッドエピトープ長鎖ペプチドとPLGAの結合体を作成し、in vivoでの免疫誘導の研究を実施する予定である。
5	(1)研究・開発等のテーマ名	間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎における筋炎特異的抗体とバイオマーカーの研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	多発性筋炎/皮膚筋炎に合併した間質性肺疾患(ILD)は、患者の予後やQOLに大きく影響するが、未だ治療戦略は確立していない。病態を反映する新規バイオマーカーの開発、重症化機序の解明、治療標的候補分子の探索が必要である。 本研究では、新規バイオマーカーを、以下の2点から探索することを目的とする。 1. 血清の筋炎特異的自己抗体(MSA)を網羅的に測定し、バイオマーカーとしての有用性を検討する。 2. ショットガンプロテオーム解析を用いて、新規バイオマーカー候補を探索する。
	(3)前年度までの状況	
	(4)当該年度内の進捗	患者群をMSAによるサブグループに分類し、臨床情報との関連を解析した。抗MDA5抗体陽性群は他群と比較して、急性/亜急性発症のILDが多く、初期治療後の90日生存率が最も低かった。しかし、初期治療成功例のほとんどが長期生存していた。一方、抗ARS抗体陽性群やMSA陰性群は半数以上が慢性発症のILDであり、初期治療反応性は良好で、90日生存率は抗MDA5抗体陽性群と比較して有意に良好だった。特に、抗ARS抗体陽性群は長期予後も良好であった。本疾患では、MSAサブグループ毎に臨床的表現型や治療反応性・予後が大きく異なるため、診断時のMSA測定が治療戦略決定のために重要であることが示唆された。(Hozumi et al, Respiratory Medicine 2016)
	(5)翌年度の方針と予想	今後は血清などの臨床検体を用いてプロテオーム解析を行い、新規バイオマーカーを探索する予定である。
6	(1)研究・開発等のテーマ名	進行肺癌の新既治療開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	進行肺癌の治療成績は十分とはいえず、新既治療開発は重要な課題である。当科では、特に新規維持療法の開発および高齢者肺癌の治療開発を中心に行っている。
	(3)前年度までの状況	これまで発表したdocetaxelとpemetrexedの維持療法を比較した研究は被引用数12、pemetrexedにbevacizumabを上乗せする維持療法の有用性を検討した研究は被引用数6、高齢者肺癌に対する隔週gemcitabineとcarboplatin療法の研究は被引用数8、高齢者EGFR陽性肺癌に対するerlotinibの研究は被引用数6となっている。
	(4)当該年度内の進捗	docetaxel+bevacizumab併用維持療法に関する研究が予定登録数に達し募集を終了した。扁平上皮肺癌に対するS1スイッチ維持療法に関する研究、高齢者EGFR陽性肺癌に対するerlotinibとbevacizumab併用療法、高齢者肺癌に対するpemetrexed+bevacizumab併用療法に関する研究が進行中で、症例集積が進んでいる。扁平上皮癌に対するS1継続維持療法に関する研究が論文化された。
	(5)翌年度の方針と予想	docetaxel+bevacizumab併用維持療法に関する研究は観察期間を終えて症例を解析し論文化を予定。扁平上皮癌に対するS1スイッチ療法に関する研究が予定登録数に達する見込みである。

7	(1) 研究・開発等のテーマ名
	制吐療法の開発
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	支持療法は癌治療成績にも影響を及ぼす。中等度催吐性薬剤はレジメン間での催吐性にばらつきが大きいいため適切な支持療法の探索は依然として重要な問題であり、主たる研究テーマとして取り組んでいる。
	(3) 前年度までの状況
	carboplatin併用レジメンにおけるaprepitantの有用性に関する研究は被引用数12で2016年のMASCCガイドラインにも引用された。carboplatin併用レジメンparonosetronの有用性に関する研究は被引用数2となっている。
(4) 当該年度内の進捗	
carboplatin併用レジメンにおけるaprepitantの逐次投与の有効性に関する研究を論文化した。	
(5) 翌年度の方針と予想	
carboplatin併用レジメンにおけるaprepitantのsalvage治療に関する研究を論文化予定である。	

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	55編 (2編)
そのインパクトファクターの合計	181.176
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	8編
そのインパクトファクターの合計	17.901
(3) 総説数(うち和文のもの)	11編 (8編)
そのインパクトファクターの合計	5.310
(4) 著書数(うち和文のもの)	10編 (10編)
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	10編 (2編)
そのインパクトファクターの合計	17.945

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Enomoto N, Chida K, Suda T, Kaida Y, Taniguchi M, Azuma A, Hayashi H, Ogura T, Kitamura H, Yamaguchi O, Ando M, Sato A, Kudo S: An exploratory trial of intravenous immunoglobulin therapy for idiopathic pulmonary fibrosis: a preliminary multicenter report. Clin Respir J. 10(6):746-755, 2016.	2.147
2.	Enomoto Y, Inui N, Kato T, Baba T, Karayama M, Nakamura Y, Ogura T, Suda T: Low forced vital capacity predicts cytotoxic chemotherapy-associated acute exacerbation of interstitial lung disease in patients with lung cancer. Lung Cancer 96:63-67, 2016.	3.767
3.	Enomoto Y, Inui N, Yoshimura K, Nishimoto K, Mori K, Kono M, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Iwashita T, Suda T: Lung cancer development in patients with connective tissue disease-related interstitial lung disease: A retrospective observational study. Medicine (Baltimore) 95(50):e5716, 2016.	2.133
4.	Enomoto Y, Yokomura K, Hasegawa H, Ozawa Y, Matsui T, Suda T: Healthcare-associated pneumonia with positive respiratory methicillin-resistant Staphylococcus aureus culture: Predictors of the true pathogenicity. Geriatr Gerontol Int. 17: 456-462, 2017.	2.229
5.	Hozumi H, Enomoto N, Oyama Y, Kono M, Fujisawa T, Inui N, Nakamura Y, Suda T: Clinical Implication of Proteinase-3-antineutrophil Cytoplasmic Antibody in Patients with Idiopathic Interstitial Pneumonias. Lung 194(2):235-242, 2016.	2.000
6.	Hozumi H, Fujisawa T, Nakashima R, Johkoh T, Sumikawa H, Murakami A, Enomoto N, Inui N, Nakamura Y, Hosono Y, Imura Y, Mimori T, Suda T: Comprehensive assessment of myositis-specific autoantibodies in polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung disease. Respir Med. 121:91-99, 2016.	3.036
7.	Inoue Y, Yoshimura K, Mori K, Kurabe N, Kahyo T, Mori H, Kawase A, Tanahashi M, Ogawa H, Inui N, Funai K, Shinmura K, Niwa H, Suda T, Sugimura H: Clinical significance of PD-L1 and PD-L2 copy number gains in non-small-cell lung cancer. Oncotarget 7(22):32113-32128, 2016.	5.008
8.	Karayama M, Inui N, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Kuroishi S, Yokomura K, Koshimizu N, Sato M, Toyoshima M, Shirai T, Masuda M, Yamada T, Imokawa S, Suda T: Maintenance therapy with pemetrexed and bevacizumab versus pemetrexed monotherapy after induction therapy with carboplatin, pemetrexed, and bevacizumab in patients with advanced non-squamous non small cell lung cancer. Eur J Cancer. 58:30-37, 2016.	6.163
9.	Karayama M, Inui N, Kusagaya H, Suzuki S, Inoue Y, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Suda T: Changes in cross-sectional area of pulmonary vessels on chest computed tomography after chemotherapy in patients with advanced non-squamous non-small-cell lung cancer. Cancer Chemother Pharmacol. 77(5):1011-1018, 2016.	2.824

10.	Kono M, Nakamura Y, Oyama Y, Mori K, Hozumi H, Karayama M, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Yamada M, Hamada E, Colby TV, Maekawa M, Suda T: Increased levels of serum Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein in idiopathic pulmonary fibrosis. <i>Respir Med.</i> 115:46–52, 2016.	3.036
11.	Kono M, Nakamura Y, Yoshimura K, Enomoto Y, Oyama Y, Hozumi H, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Hamada E, Colby TV, Maekawa M, Suda T: Nonspecific interstitial pneumonia preceding diagnosis of collagen vascular disease. <i>Respir Med.</i> 117:40–47, 2016.	3.036
12.	Mikamo M, Fujisawa T, Oyama Y, Kono M, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Sumikawa H, Johkoh T, Suda T: Clinical Significance of Forced Oscillation Technique for Evaluation of Small Airway Disease in Interstitial Lung Diseases. <i>Lung</i> 194(6):975–983, 2016.	2.000
13.	Mori K, Fujisawa T, Inui N, Hashimoto D, Enomoto N, Nakamura Y, Kuroishi S, Yokomura K, Toyoshima M, Imokawa S, Yamada T, Shirai T, Masuda M, Hayakawa H, Chida K, Suda T: Step-down treatment from medium-dosage of budesonide/formoterol in controlled asthma. <i>Respir Med.</i> 119:1–6, 2016.	3.036
14.	Suzuki S, Karayama M, Inui N, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Kuroishi S, Matsuda H, Yokomura K, Koshimizu N, Toyoshima M, Imokawa S, Asada K, Masuda M, Yamada T, Watanabe H, Suda T: Continuation maintenance therapy with S-1 in chemotherapy-naïve patients with advanced squamous cell lung cancer. <i>Invest New Drugs.</i> 34(4):490–496, 2016.	3.281
15.	Suzuki S, Karayama M, Inui N, Kuroishi S, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Yokomura K, Toyoshima M, Imokawa S, Asada K, Masuda M, Yamada T, Watanabe H, Hayakawa H, Suda T: Sequential addition of Aprepitant in patients receiving carboplatin-based chemotherapy. <i>Med Oncol.</i> 33(7):65, 2016.	2.486
16.	Suzuki Y, Enomoto Y, Yokomura K, Hozumi H, Kono M, Karayama M, Furuhashi K, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Suda T: Soluble hemoglobin scavenger receptor CD163 (sCD163) predicts mortality of community-acquired pneumonia. <i>J Infect.</i> 73(4):375–377, 2016.	4.382
17.	Suzuki Y, Imokawa S, Sato J, Uto T, Suda T: Cumulative incidence of tuberculosis in lung cancer patients in Japan: A 6-year observational study. <i>Respir Investig.</i> 54(3):179–183, 2016.	0.000
18.	Suzuki Y, Maazi H, Sankaranarayanan I, Lam J, Khoo B, Soroosh P, Barbers RG, James Ou JH, Jung JU, Akbari O: Lack of autophagy induces steroid-resistant airway inflammation. <i>J Allergy Clin Immunol.</i> 137(5):1382–1389, 2016.	12.485
19.	Suzuki Y, Shirai M, Asada K, Miwa S, Karayama M, Nakamura Y, Inui N, Shirai T, Hayakawa H, Baba S, Suda T: Utility of Macrophage Activated Marker, CD163, for Diagnosis and Prognosis in Pulmonary Tuberculosis. <i>Ann Am Thorac Soc.</i> 14(1): 57–64, 2017.	0.000
20.	Uehara M, Enomoto N, Mikamo M, Oyama Y, Kono M, Fujisawa T, Inui N, Nakamura Y, Suda T: Impact of angiotensin-1 and -2 on clinical course of idiopathic pulmonary fibrosis. <i>Respir Med.</i> 114:18–26, 2016.	3.036
21.	Yasui H, Donahue DL, Walsh M, Castellino FJ, Ploplis VA: Early coagulation events induce acute lung injury in a rat model of blunt traumatic brain injury. <i>Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol.</i> 311(1):L74–86, 2016.	4.721
22.	Yoshimura K, Suzuki Y, Uto T, Sato J, Imokawa S, Suda T: Morphological changes in small pulmonary vessels are associated with severe acute exacerbation in chronic obstructive pulmonary disease. <i>Int J Chron Obstruct Pulmon Dis.</i> 2016;11:1435–1445, 2016.	3.046
23.	Enomoto Y, Nakamura Y, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Suda T: Japanese herbal medicine-induced pneumonitis: A review of 73 patients. <i>Respir Investig.</i> 55, 138–44, 2017.	0.000
24.	Fujisawa T, Hozumi H, Kono M, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Nakashima R, Imura Y, Mimori T, Suda T: Predictive factors for long-term outcome in polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung diseases. <i>Respir Investig.</i> 55(2), 130–37, 2017	0.000
25.	Karayama M, Inui N, Mori K, Kono M, Hozumi H, Suzuki Y, Furuhashi K, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Watanabe H, Suda T: Respiratory impedance is correlated with morphological changes in the lungs on three-dimensional CT in patients with COPD. <i>Sci Rep.</i> 8, 41709, 2017	5.228
26.	Oyama Y, Enomoto N, Suzuki Y, Kono M, Fujisawa T, Inui N, Nakamura Y, Kuroishi S, Yokomura K, Toyoshima M, Imokawa S, Oishi K, Watanabe S, Kasahara K, Baba T, Ogura T, Ishii H, Watanabe K, Nishioka Y, Suda T: Evaluation of urinary desmosines as a noninvasive diagnostic biomarker in patients with idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE). <i>Respir Med.</i> 123, 63–70, 2017	3.036
27.	Enomoto Y, Suzuki Y, Hozumi H, Mori K, Kono M, Karayama M, Furuhashi K, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Suzuki D, Ogawa N, Nakashima R, Mimori T, Iwashita T, Suda T: Clinical significance of soluble CD163 in polymyositis-related or dermatomyositis-related interstitial lung disease. <i>Arthritis Res Ther.</i> 19, 9, 2017	3.979
28.	Inoue Y, Yoshimura K, Kurabe N, Kahyo T, Kawase A, Tanahashi M, Ogawa H, Inui N, Funai K, Shinmura K, Niwa H, Suda T, Sugimura H: Prognostic impact of CD73 and A2A adenosine receptor expression in non-small-cell lung cancer. <i>Oncotarget.</i> 31, 8738–51, 2017	5.008
29.	Galle-Treger L*, Suzuki Y*, Patel N, Sankaranarayanan I, Aron JL, Maazi H, Chen L, Akbari O: Nicotinic acetylcholine receptor agonist attenuates ILC2-dependent airway hyperreactivity. <i>Nat Commun.</i> 7:13202, 2016.	11.329
30.	Akamatsu T, Shirai T, Shimoda Y, Suzuki T, Hayashi I, Noguchi R, Mochizuki E, Sakurai S, Saigusa M, Yamamoto A, Shishido Y, Akita T, Morita S, Asada K: Forced oscillation technique as a predictor of FEV1 improvement in asthma. <i>Respiratory Physiology & Neurobiology</i> 236:78–83, 2017.	1.773
31.	Ohba K, Leow MK, Singh BK, Sinha RA, Lesmana R, Liao XH, Ghosh S, Refetoff S, Sng JC, Yen PM: Desensitization and Incomplete Recovery of Hepatic Target Genes After Chronic Thyroid Hormone Treatment and Withdrawal in Male Adult Mice. <i>Endocrinology.</i> 157(4):1660–72, 2016.	4.150
32.	冲隆, 飯野和美, 山下美保, 大石敏弘, 柿沢圭亮, 大川雄太: 先端巨大症薬物療法の長期成績. <i>日本内分泌学会雑誌</i> 91巻Suppl.: 11–12, 2016.	0.000

33.	柿沢 圭亮, 大川 雄太, 大石 敏弘, 山下 美保, 佐々木 茂和, 佐橋 徹, 遠山 和成, 沖 隆 エクレーシス試薬コレチゾールIIを用いた血中コレチゾール測定の基礎的検討. 医学と薬学 73巻1号 : 71-76, 2015.	0.000
34.	小松勝利, 西山孝三, 松永英之, 小澤恵, 吉見輝也: 経口糖尿病治療薬の多剤併用患者におけるSGLT2阻害薬トログリフロジンの有効性および安全性. Progress in Medicine 36(9) : 1285-1289, 2016.	0.000
35.	西山孝三, 小松勝利, 松永英之, 小澤恵, 吉見輝也: 非家族性高コレステロール血症を合併する2型糖尿病に対するスタチンやエゼチミブ治療における血清proprotein convertase subtilisin/kexin type 9(PCSK9)の脂質代謝への影響の解析. Progress in Medicine 36(8) : 1095-1100, 2016	0.000

論文数(A)小計 35 うち和文 1 IF小計 108.355

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Kurabe N, Igarashi H, Ohnishi I, Tajima S, <u>Inoue Y</u> , Takahashi Y, Setou M, Sugimura H. Visualization of sphingolipids and phospholipids in the fundic gland mucosa of human stomach using imaging mass spectrometry. World J Gastrointest Pathophysiol. 2016 May 15;7(2):235-41.	0.000
2.	Odagiri K, <u>Inui N</u> , Hakamata A, Inoue Y, <u>Suda T</u> , Takehara Y, Sakahara H, Sugiyama M, Alley MT, Wakayama T, Watanabe H: Non-invasive evaluation of pulmonary arterial blood flow and wall shear stress in pulmonary arterial hypertension with 3D phase contrast magnetic resonance imaging. Springerplus 5(1):1071, 2016.	0.982
3.	Shinmura K, Kato H, Kawanishi Y, <u>Yoshimura K</u> , Igarashi H, Goto M, Tao H, <u>Inoue Y</u> , Sugiyama T, Furuse H, Ozono S, Sugimura H. Reduced expression of the DNA glycosylase gene MUTYH is associated with an increased number of somatic mutations via a reduction in the DNA repair capacity in prostate adenocarcinoma. Mol Carcinog. 2016 Jun 2.	4.722
4.	Meguro S, Akamatsu T, <u>Matsushima S</u> , Kosugi I, Kawasaki H, Arai Y, Baba S, Tsuchida T, Shido Y, <u>Suda T</u> , Iwashita T: Phenotypic characterization of perivascular myoid cell neoplasms, using myosin 1B, a newly identified human pericyte marker, Hum Pathol, 62, 187-98, 2017	2.791
5.	Fujimoto M, Murakami A, Kurei S, Okiyama N, Kawakami A, Mishima M, Sato S, Seishima M, <u>Suda T</u> , Mimori T, Takehara K, Kuwana M. Enzyme-linked immunosorbent assays for detection of anti-transcriptional intermediary factor-1 gamma and anti-Mi-2 autoantibodies in dermatomyositis. J Dermatol Sci. 2016;84:272-81.	3.739
6.	Matsumoto T, Kushida H, Matsushita S, Oyama Y, <u>Suda T</u> , Watanabe J, Kase Y, Setou M. Distribution Analysis via Mass Spectrometry Imaging of Ephedrine in the Lungs of Rats Orally Administered the Japanese Kampo Medicine Maoto. Sci Rep. 2017;7:44098.	5.228
7.	Sato R, Tsuchiya KJ, Matsuzaki H, Takei N, Itoh H, Kanayama N, <u>Suda T</u> , Watanabe H, Ohashi T, Tanaka M, Nishimura S, Maekawa M. Fetal Environment and Glycosylation Status in Neonatal Cord Blood: A Comprehensive Mass Spectrometry-based Glycosylation Analysis. Intern Med. 2016;55(18):2649-58.	2.113
8.	Sato S, Murakami A, Kuwajima A, Takehara K, Mimori T, Kawakami A, Mishima M, <u>Suda T</u> , Seishima M, Fujimoto M, Kuwana M. Clinical Utility of an Enzyme-Linked Immunosorbent Assay for Detecting Anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5 Autoantibodies. PLoS One. 2016;11:e0154285.	3.057
9.	Zhan F, Watanabe Y, Shimoda A, Hamada E, <u>Kobayashi Y</u> , Maekawa M: Evaluation of serum bone alkaline phosphatase activity in patients with liver disease: Comparison between electrophoresis and chemiluminescent enzyme immunoassay. Clinica Chimica Acta 460:40-45, 2016.	2.799
10.	Yuan Li, Masahiko Ito, Suofeng Sun, <u>Takeshi Chida</u> , Kenji Nakashima, Tetsuro Suzuki. :LUC7L3/CROP inhibits replication of hepatitis B virus via suppressing enhancer II/basal core promoter activity. Scientific Reports, 2016.	5.228

論文数(B)小計 10 うち和文 0 IF小計 30.659

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	阿部岳文, 横村 光司, 後藤 彩乃, 赤堀 大介, 幸田 敬悟, 小谷内 敬史, 角谷 拓哉, 榎本 泰典, 松井 隆, 須田 隆文: 特発性肺線維症の急性増悪に対するリコンビナントトロポモデュリンの有用性. 日呼吸誌, 5(2): 57-63, 2016	0.000
2.	Matsumoto T, Kushida H, Matsushita S, Oyama Y, <u>Suda T</u> , Watanabe J, Kase Y, Setou M: Distribution Analysis via Mass Spectrometry Imaging of Ephedrine in the Lungs of Rats Orally Administered the Japanese Kampo Medicine Maoto. Sci rep, 7, 44098, 2017	5.228
3.	Sato R, Tsuchiya KJ, Matsuzaki H, Takei N, Itoh H, Kanayama N, <u>Suda T</u> , Watanabe H, Ohashi T, Tanaka M, Nishimura SI, Maekawa M; HBC study group: Fetal Environment and Glycosylation Status in Neonatal Cord Blood: A Comprehensive Mass Spectrometry-based Glycosylation Analysis, Medicine (Baltimore), 95, e3219, 2016	2.133
4.	Sinha RA, Singh BK, Zhou J, Wu Y, Farah BL, <u>Ohba K</u> , Lesmana R, Gooding J, Bay BH, Yen PM: Thyroid hormone induction of mitochondrial activity is coupled to mitophagy via ROS-AMPK-ULK1 signaling. Autophagy 11:1341-57, 2015.	9.108
5.	Lesmana R, Sinha RA, Singh BK, Zhou J, <u>Ohba K</u> , Wu Y, Yau WW, Bay BH, Yen PM: Thyroid Hormone Stimulation of Autophagy Is Essential for Mitochondrial Biogenesis and Activity in Skeletal Muscle. Endocrinology 157, 23-38, 2016.	4.150

6.	Singh BK, Sinha RA, Zhou J, Tripathi M, <u>Ohba K</u> , Wang ME, Astapova I, Ghosh S, Hollenberg AN, Gauthier K, Yen PM: Hepatic FOXO1 Target Genes Are Co-regulated by Thyroid Hormone via RICTOR Protein Deacetylation and MTORC2-AKT Protein Inhibition. J Biol Chem 291: 198-214, 2016.	4.250
7.	Sinha RA, Singh BK, Zhou J, Xie S, Farah BL, Lesmana R, <u>Ohba K</u> , Tripathi M, Ghosh S, Hollenberg AN, Yen PM: Loss of ULK1 increases RPS6KB1-NCOR1 repression of NR1H/LXR-mediated Scd1 transcription and augments lipotoxicity in hepatic cells. Autophagy 13(1):169-186,2016	9.109
8.	Chhabra KH, Adams JM, Jones GL, <u>Yamashita M</u> , Schlapschy M, Skerra A, Rubinstein M, Low MJ : Reprogramming the body weight set point by a reciprocal interaction of hypothalamic leptin sensitivity and Pomc gene expression reverts extreme obesity. Mol Metab. 5(10):869-881, 2016.	5.360
9.	<u>Ozawa Y</u> , Akahori D, Koda K, Abe T, Hasegawa H, Matsui T, Tanahashi M, Niwa H, Yamada K, Yokomura K, <u>Suda T</u> : Distinctive impact of pre-existing interstitial lung disease on the risk of chemotherapy-related lung injury in patients with lung cancer. Cancer Chemother Pharmacol. 77(5):1031-1038, 2016.	2.824
10.	<u>Kakizawa K</u> , Watanabe M, Mutoh H, Okawa Y, <u>Yamashita M</u> , Yanagawa Y, Itoi K, <u>Suda T</u> , Oki Y, Fukuda A : A novel GABA-mediated corticotropin-releasing hormone secretory mechanism in the median eminence. Sci Adv. 2(8):e1501723, 2016.	0.000

論文数(C)小計 10 うち和文 1 IF小計 42.162

(2-1)論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	榎本紀之, 膠原病的要素を有する特発性間質性肺炎 ~ 予後へ与えるインパクト~, 鳥取県東部医師会報, 427号, 28-31, 2017年	0.000
2.	須田隆文, 榎本紀之, 膠原病的背景を有する特発性間質性肺炎の多施設共同コホート研究~中間解析2016~, 厚生労働科学研究委託業務難治性疾患実用化研究事業 びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究班平成28年度研究報告書, 2016	0.000
3.	山下美保, 大川雄太, 沖隆: Cushing病における低K血症. 日本内分泌学会雑誌 92巻Suppl.: 43-45, 2016.	0.000
4.	鈴木智恵子, 山下美保, 大川雄太, 柿沢圭亮, 大石敏弘, 沖隆: 先端巨大症におけるGHRP-2試験の有用性. 日本内分泌学会雑誌 92巻Suppl.: 15-17, 2016.	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 4 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 0 IF小計 0.000

(2-2)レター

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	<u>Yoshimura K</u> , Osman M, <u>Inoue Y</u> , <u>Suda T</u> , Sugimura H: A novel prognostic marker of non-small cell lung cancer: chromosome 9 open reading frame 86 (C9orf86). J Thorac Dis. 8(9):2284-2286, 2016.	1.649
2.	Maazi H, <u>Suzuki Y</u> , Jung J, Akbari O: Reply: J Allergy Clin Immunol. 139, 712-713, 2017.	12.485
3.	Mochizuki E, Shirai T, Hayashi I, Noguchi R, <u>Sakurai S</u> , Saigusa M, Yamamoto A, Shishido Y, Akita T, Morita S, Asada K, Fujii M: Undiagnosed COPD in hospitalized patients with pneumonia in Japan. Respir Investig 54:369-371, 2016.	0.000
4.	<u>Sakurai S</u> , Shirai T, Akamatsu T, Hayashi I, Noguchi R, Mochizuki E, Saigusa M, Yamamoto A, Shishido Y, Akita T, Morita S, Asada K, Fujii M: Endobronchial lesions as a predictor of impaired cough-related quality of life in lung cancer. Lung Cancer 96:25-26, 2016.	3.767

レター数小計 4 IF小計 17.901

(3)総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	<u>Suda T</u> : Up-to-Date Information on Rheumatoid Arthritis-Associated Interstitial Lung Disease. Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med. 9(Suppl 1):155-162, 2016.	1.770
2.	<u>Nakamura Y</u> , <u>Suda T</u> : Idiopathic Pulmonary Fibrosis: Diagnosis and Clinical Manifestations. Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med. 9(Suppl 1):163-171, 2016.	1.770
3.	須田隆文, 徳田均: 診療ガイドラインat a glance 生物学的製剤と呼吸器疾患・診療の手引き. 日本内科学会雑誌 105(8): 1414-1421, 2016	0.000
4.	須田隆文: IPAFと特発性間質性肺炎. 最新医学 71(7): 1298-1305, 2016.	0.000
5.	須田隆文: さまざまなびまん性肺疾患の診断・治療 膠原病肺. 内科 117(2): 249-253, 2016.	0.000
6.	須田隆文: 呼吸器疾患: 症例から病態生理学/分子病態学へ 間質性肺炎. 呼吸と循環. 医学書院 64(10):947-954, 2016.	0.000
7.	須田隆文: 膠原病関連肺の診断と管理. 呼吸器内科 30(2): 171-177, 2016.	0.000

8.	中村祐太郎、千田金吾、須田隆文: 関節リウマチに伴うUIPの臨床的病理学的特徴. 分子呼吸器病 20(1): 12-16, 2016.	0.000
9.	榎本紀之、須田隆文、膠原病関連の間質性肺炎におけるMDD診断、医学のあゆみ、260号(8)、667-672, 2017.	0.000

総説数(A)小計 9 うち和文 7 IF小計 3.540

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者、共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	鈴木哲朗、中島謙治、千田剛土、伊藤昌彦: C型肝炎治療法の進歩. ウイルス65(2):239-244, 2015.	0.000

総説数(B)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者、共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Mori S, Furukawa H, Kawaguchi Y, Suda T, Tasaka S: Current Developments in Interstitial Lung Disease. Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med. 9(Suppl 1):173-177, 2016.	1.770

総説数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 1.770

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	秋山訓通、豊嶋幹生: 左第IV弓とのシルエットサイン陰性の結節影. 検診胸部X線写真の読影-肺がんの発見から治療、予後までを追う-浜松市医師会 肺結核・肺がん検診委員会(編). 国際医学出版 2016, 193-194.	
2.	榎本紀之: 気管支鏡の適応と結果の解釈, 外科的肺生検について. 気づきと対応がわかる びまん性肺疾患の診かた治しかた. 喜舎場朝雄(編). 南江堂、2016, 79-89.	
3.	神谷陽輔、豊嶋幹生: 陳旧性陰影と鑑別を要する充実性腫瘤影. 検診胸部X線写真の読影-肺がんの発見から治療、予後までを追う-浜松市医師会 肺結核・肺がん検診委員会(編). 国際医学出版 2016, 123-124.	
4.	鈴木清一郎、豊嶋幹生: 縦隔リンパ節に転移していた25mmの肺腺がん. 検診胸部X線写真の読影-肺がんの発見から治療、予後までを追う-浜松市医師会 肺結核・肺がん検診委員会(編). 国際医学出版 2016, 133-134.	
5.	鈴木清一郎、豊嶋幹生: 左第IV弓とのシルエットサイン陰性の腫瘤影. 検診胸部X線写真の読影-肺がんの発見から治療、予後までを追う-浜松市医師会 肺結核・肺がん検診委員会(編). 国際医学出版 2016, 235-236.	
6.	須田隆文: 膠原病的背景をもった間質性肺炎(UCTD, LD-CTD, AIF-ILDなど)はどう治療し管理すべきか? EBM呼吸器疾患の治療2016-2017edition. 永井厚志(編). 中外医学社、2016, 202-210.	
7.	須田隆文: 膠原病の肺病変. 呼吸器疾患最新の治療2016-2018. 南江堂、2016, 365-368.	
8.	古橋一樹、須田隆文: 喀痰(P痰・M痰). 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ. 加藤明彦、小松康宏、中山昌明(編). 日本メディカルセンター、2016, 102-103.	
9.	榎本紀之、気管支鏡の適応と結果の解釈(外科的肺生検についてびまん性肺疾患の診かた治しかた)、南江堂、79-89, 2016	
10.	松下明生、佐々木茂和: I 甲状腺の基礎 5. 甲状腺ホルモンの作用: 甲状腺専門医ガイドブック, 診断と治療社, 2016, 21-25.	

著書数(A)小計 10 うち和文 10

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計 0 うち和文 0

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者、共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Kamiya Y, Toyoshima M, Akiyama N, Suda T: Combined pulmonary fibrosis and emphysema preceding lupus pleuritis. Intern Med 55(7): 783-786, 2016.	0.832
2.	Kamiya Y, Toyoshima M, Suda T: Endobronchial Involvement in Methotrexate-associated Lymphoproliferative Disease. Am J Respir Crit Care Med 193(11):1304-1306, 2016.	13.118
3.	Yoshimura K, Inui N, Karayama M, Inoue Y, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Takeuchi K, Sugimura H, Suda T: Successful crizotinib monotherapy in EGFR-mutant lung adenocarcinoma with acquired MET amplification after erlotinib therapy. Respir Med Case Rep, 17(20), 160-63, 2017	0.000
4.	Tanaka Y, Shirai T, Asada K, Oyama Y, Enomoto N, Suda T: Occupational hypersensitivity pneumonitis in a green tea manufacturer. Respirology Case Reports 4:e00152, 2016.	0.000
5.	Yasui H, Yokomura K, Suda T: A severe case of acute exogenous lipid pneumonia treated with systemic corticosteroid. Respir Med Case Rep. 17:64-67, 2016.	0.000
6.	Yasui H, Yokomura K, Suda T: Idiopathic Nonsurgical Pneumoperitoneum Accompanied by a Pneumomediastinum. Intern Med. 55(15):2125-2126, 2016.	0.832

7.	幸田 敬悟, 榎本 泰典, 大前 美奈子, 赤堀 大介, 阿部 岳文, 長谷川 浩嗣, 松井 隆, 横村 光司, 須田 隆文: 真性皮膚結核が先行した粟粒結核の1例. 結核 91(2):59-63, 2016.	0.000
8.	柴田洋, 草ヶ谷英樹, 土屋一夫, 大山吉幸, 山田孝, 江河勇樹: シェーグレン症候群に合併した肺軽鎖沈着症の1例. 日本呼吸器学会誌 5 (5):245-249, 2016.	0.000
9.	Aono Y, Imokawa S, Uto T, Sato J, Tanioka F, Suda T: Granulomatosis with polyangiitis involving the epiglottis, Respirol Case Rep, 5(3), e00226, 2017	0.000
10.	Nishimoto K, Karayama M, Akiyama N, Suzuki S, Inoue Y, Kono M, Hozumi H, Suzuki Y, Furuhashi K, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Suda T: Gastrointestinal Bleeding From Duodenal Aberrant Pancreas After Antiangiogenic Therapy. J Clin Gastroenterol. 50(8):689-690, 2016.	3.163
症例報告数(A)小計		10
うち和文		2
IF小計		17.945
B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)		
症例報告数(B)小計		0
うち和文		0
IF小計		0.000
C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの		
症例報告数(C)小計		0
うち和文		0
IF小計		0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	13 件	995 万円
(2) 厚生労働科学研究費	2 件	50 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	1 件	25 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	16 件	861 万円
(8) 奨学寄附金	54 件	3,645 万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	藤澤朋幸(代表), 須田隆文(分担), 基盤研究(C), 気管支喘息発作時の気道炎症増悪における獲得免疫と自然免疫のクロストークの解明, 平成26年度~平成28年度	100万円
2.	松下明生(代表), 佐々木茂和(分担), 基盤研究(C), 甲状腺ホルモンとその受容体による転写調節における転写伸長因子の関わり, 平成26年度~平成28年度	140万円
3.	須田隆文(代表), 中村祐太郎(分担), 基盤研究(C), 生分解性ナノ粒子を用いた結核感染症に対する新規樹状細胞ワクチンの開発, 平成27年度~平成29年度	140万円
4.	中村祐太郎(代表), 須田隆文(分担), 基盤研究(C), 肺線維症合併肺癌に対する新規免疫療法の開発, 平成27年度~平成29年度	150万円
5.	佐々木茂和(代表), 松下明生(分担), 基盤研究(C), 甲状腺ホルモンによる甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンへの負の調節機構, 平成27年度~平成29年度	100万円
7.	川田一仁(代表), 若手研究(B), 原発性胆汁性肝硬変症における転写因子Nrf2の機能解析と治療基盤の創出, 平成26年度~平成28年度	60万円
8.	鈴木勇三(代表), 若手研究(B), 肥満による重症喘息/難治性喘息の新規治療法の開発, 平成28年度~平成30年度	130万円
9.	古橋一樹(代表), 鈴木勇三, 須田隆文(分担), 基盤研究(C), 喘息肺における濾胞性ヘルパーT細胞の分化誘導の仕組みと喘息病態での役割の解明, 平成28年度~平成30年度	175万円

(2)厚生労働科学研究費

1.	須田隆文(分担),びまん性肺疾患に関する調査研究,平成26年度~平成28年度,(研究代表者)東邦大学教授本間栄	30万円
2.	小林良正(分担),効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究,平成26年度~平成28年度,(研究代表者)国立研究開発法人国立国際医療研究センター肝疾患研修室長是永匡紹	20万円

(3)日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成

1.	須田隆文(分担),慢性進行性肺線維化症例の疫学・治療法の検討(びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究),平成26年度~平成28年度,(研究代表者)東邦大学 教授本間栄	25万円
----	--	------

(7)受託研究または共同研究

(受託研究)		
1.	須田隆文,小野薬品工業株式会社,進行または再発非小細胞肺癌に対するニボルマブの有効性予測バイオマーカーの探索研究,平成28年度~平成30年度	135万円
2.	須田隆文(受託研究 治験) 2件	301万円
3.	須田隆文(受託研究 製版後) 3件	140万円
4.	小林良正(受託研究 治験)2件	195万円
5.	小林良正(受託研究 製版後)2件	24万円
6.	藤澤朋幸(受託研究 治験)2件	57万円
7.	松下明生(受託研究 製版後)1件	2万円
8.	山下美保(受託研究 製版後)1件	2万円
9.	柄山正人(受託研究 製版後)1件	2万円
10.	橋下卓也(受託研究 製版後)1件	2万円

6 大型プロジェクトの代表,総括

7 学会活動

	(1)国際学会	(2)国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	1 件	4 件
2) シンポジウム発表数	0 件	6 件
3) 学会座長回数	1 件	8 件
4) 学会開催回数	0 件	3 件
5) 学会役員等回数	0 件	13 件
6) 一般演題発表数	11 件	

(1)国際学会等開催・参加

1)国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1.	Suda Takafumi, "Diagnosis and clinical characteristics of autoimmune-related ILD", Asian Pacific Society of Respiriology, Bangkok (Thailand), 2016
----	--

3)国際学会・会議等での座長

1.	Suda Takafumi, Asian Pacific Society of Respiriology, Bangkok (Thailand), 2016
----	--

6)一般発表

6-2)ポスター発表

1.	Hozumi et al. Serum anti-ARS and anti-MDA-5 antibodies are useful biomarkers for predicting the prognosis in patients with polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung disease. American Thoracic Society 2016 International Conference, May 13-18, 2016, San Francisco (USA).
2.	Yuzo Suzuki, et al. Long-term Outcome and Prognostic Factors of Chronic Eosinophilic Pneumonia: Fujiyama Cohort Study, ATS2017, 2016年5月, San Francisco, US
3.	Enomoto N, et al.: Analysis of Serum Ferritin in Patients with Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis. American Thoracic Society, 2016.5.15. (San Fransisco)
4.	Fujisawa T, et al.: Clinical Features and Predictive Factors for Long-Term Follow-Up in Polymyositis/Dermatomyositis-Associated Interstitial Lung Diseases. American Thoracic Society, 2016.5.15. (San Fransisco)
5.	Niwa M, et al.: Differences Of Clinical Features And Airway Structural Changes Between Asthma And Asthma-COPD Overlap Syndrome. American Thoracic Society, 2016.5.15. (San Fransisco)
6.	Oyama Y, et al.: A Change in Lipid Composition Depending on the Progression of Bleomycin-Induced Pulmonary Fibrosis was Revealed by Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization Imaging Mass Spectrometry. American Thoracic Society, 2016.5.15. (San Fransisco)

7.	Inoue Y: Opposing Prognostic Roles of CD73 and A2A Adenosine Receptor in Non-Small-Cell Lung Cancer. International Association for the Study of Lung Cancer, 2016.12. (Vienna)
8.	Yoshimura K: Comparative Analysis of TTF-1 Copy Number Alterations and Protein Expression in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer. International Association for the Study of Lung Cancer, 2016.12. (Vienna)
9.	Takeshi CHIDA, Masahiko ITO, Kenji NAKASHIMA, Tetsuro SUZUKI: Critical role of CREBH activation induced in HCV-infected cells in enhancing profibrogenic responses in nearby hepatic stellate cells. 23th International symposium on HCV and related viruses (HCV2016). 2016.10.13(京都)
10.	Erika Matsunaga, Takeshi Chida, Maho Nagasawa, Zyun Ito, Kazuyoshi Ohta, Shin Shimoyama, Satoru Yamazaki, Hidenao Noritake, Kazuhito Kawata, Tetsuro Suzuki, Yoshimasa Kobayashi: Hepatitis C virus eradication by daclatasvir and asunaprevir therapy contributes to rapid changes in circulating lipid/lipoprotein and apolipoprotein profiles. 23th International symposium on HCV and related viruses. 2016.10.13(京都)
11.	Erika Matsunaga, Takeshi Chida, Maho Nagasawa, Zyun Ito, Kazuyoshi Ohta, Shin Shimoyama, Satoru Yamazaki, Hidenao Noritake, Kazuhito Kawata, Yoshimasa Kobayashi: Rapid changes in circulating lipid/lipoprotein and apolipoprotein profiles during daclatasvir and asunaprevir therapy in chronic hepatitis C virus, genotype 1b-infected patients. 67th American Association for the Study of Liver Disease (AASLD2016).. 2016.11.13(ボストン)

(2)国内学会の開催・参加

1)学会における特別講演・招待講演

1.	須田隆文: 膠原病的背景をもつ間質性肺炎, 日本呼吸器学会学術集会, 京都(平成28年4月)
2.	中村祐太郎 「臨床からみた特発性間質性肺炎のMDDのピットホール」第11回呼吸器疾患を語る会, 2017年1月, 東京.
3.	中村祐太郎 「関節リウマチの肺病変-間質性肺炎を中心に-」第29回福岡びまん性肺疾患研究会, 2016年10月, 福岡.
4.	中村祐太郎 「関節リウマチのUIP病変を考える」第6回若手のためのびまん肺勉強会, 2016年6月, 東京.

2)シンポジウム発表

1.	須田隆文: 多発性筋炎/皮膚筋炎に合併した間質性肺炎, 日本呼吸器学会学術集会, 京都(平成28年4月)
2.	榎本紀之、膠原病的背景を有する特発性間質性肺炎における臨床的意義の検討、日本呼吸器学会総会、2016年4月、京都
3.	藤澤朋幸: 症例から学ぶ膠原病合併間質性肺炎のマネージメント—手引きの作成に向けて—(日本リウマチ学会) 皮膚筋炎(抗ARS), 日本呼吸器学会学術集会, 京都(平成28年4月)
4.	山下美保、下垂体腫瘍を認めないACTH依存性Cushing症候群に対する対処法、第43回日本神経内分泌学会学術総会、浜松、2016/10/14-15
5.	千田剛士、小林良正、長澤正通、影山富士人、小柳津竜樹、竹原康雄、前川真人、鈴木哲朗: Lysyl oxidase like 2 (LOXL2)の肝線維化関連マーカーとしての有用性とダクラタスビル/アスナプレビル療法による変化の検討. 第20回日本肝臓学会大会(JDDW2016). 2016.11.3(神戸)
6.	千田剛士、小林良正、竹原康雄: ダクラタスビル/アスナプレビル療法によるHCV消失と肝線維化関連マーカーおよびMR Elastographyを用いた肝弾性率の変化の検討. 日本消化器病東海支部主催第124回例会 2016.6.18(浜松)

3)座長をした学会名

1.	須田隆文、日本アレルギー学会学術集会, 東京(平成28年6月)
2.	中村祐太郎, 第49回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 名古屋, 2016年6月
3.	古橋一樹、第110回日本呼吸器学会東海地方学会、名古屋、2016年11月5-6日
4.	川田一仁、日本内科学会東海支部主催第229回東海地方会 アクトシティ浜松 コンgressセンター 平成28年6月26日
5.	小林良正、日本消化器病学会東海支部主催第124回例会 アクトシティ浜松 コンgressセンター 平成28年6月18日
6.	川田一仁、日本消化器病学会東海支部主催第124回例会 アクトシティ浜松 コンgressセンター 平成28年6月18日
7.	森田浩、第59回日本糖尿病学会学術集会、京都、2016/5/19-21
8.	佐々木茂和 日本甲状腺学会学術集会 東京 平成28年11月3日~5日

4)主催した学会名

1.	沖隆、佐々木茂和、森田浩、松下明生、山下美保、第229回日本内科学会東海地方会、運営事務局、浜松、2016/6/26
2.	沖隆、佐々木茂和、森田浩、松下明生、山下美保、第16回日本内分泌学会東海支部学術集会、運営事務局、浜松、2016/9/10
3.	沖隆、佐々木茂和、森田浩、松下明生、山下美保、第43回日本神経内分泌学会学術総会、運営事務局、浜松、2016/10/14-15、

5)役職についている国内学会名とその役割

1.	須田隆文 日本結核病学会・代議員, 理事
2.	須田隆文 日本呼吸器学会・評議員, 理事
3.	須田隆文 日本サルコイドーシス学会・評議員, 理事
4.	須田隆文 日本呼吸器内視鏡学会・代議員
5.	須田隆文 日本アレルギー学会・代議員
6.	中村祐太郎 日本内科学会 東海支部評議員 内科認定医/総合内科専門医試験問題作成委員
7.	中村祐太郎 日本呼吸器学会 東海支部代議員

8.	中村祐太郎 日本呼吸器内視鏡学会 評議員
9.	中村祐太郎 日本結核病学会 評議員
10.	中村祐太郎 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 評議員 学会雑誌常任編集委員
11.	佐々木茂和 日本内分泌学会 代議員,日本甲状腺学会 評議員
12.	川田一仁、日本消化器病学会東海支部評議員
13.	小林良正、日本肝臓学会東部会評議員 日本消化器病学会東海支部評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1.	須田隆文 Allergology International 2回
2.	須田隆文 Internal Medicine 2回
3.	須田隆文 Pharmacoepidemiology 1回
4.	須田隆文 Respiratory Investigation 1回
5.	須田隆文 日本呼吸器学会誌 3回
6.	中村祐太郎 Expert Review of Respiratory Medicine 1回
7.	中村祐太郎 Respiratory Medicine 1回
8.	中村祐太郎 Internal Medicine 2回
9.	中村祐太郎 Respiratory Investigation 1回
10.	藤澤朋幸 Respiration 1回
11.	藤澤朋幸 Expert Review of Respiratory Medicine 1回
12.	藤澤朋幸 Internal Medicine 3回
13.	藤澤朋幸 Respiratory Medicine 1回
14.	藤澤朋幸 Plos One 1回
15.	藤澤朋幸 日本呼吸器学会誌 1回
16.	榎本紀之 Allergology International 1回
17.	鈴木勇三 British Journal of Cancer 1回
18.	鈴木勇三 Respiratory Research 1回
19.	鈴木勇三 BMC Infectious Disease 1回
20.	鈴木勇三 Therapeutic Advances in Respiratory Disease 1回
21.	鈴木勇三 Clinical and Translational Medicine 1回
22.	川田一仁 Clinical and Experimental Nephrology 1回
23.	古橋一樹 Respiratory Medicine Case Reports 2回
24.	山下美保 Internal Medicine 2回
25.	松下明生 Internal Medicine 1回
26.	森田浩 Diabetes International 1回
27.	佐々木茂和 ScientificReports 1回

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	2件
(3)学内共同研究	4件

(2)国内共同研究

1.	呼吸器アレルギーによるアトピー・非アトピー型喘息フェノタイプ発症と特異的抗体産生のメカニズムの解明、鳥居薬品株式会社、平成27-29年度、資料提供
2.	甲状腺刺激ホルモン、副腎皮質刺激ホルモンのリニアー・ログな負の調節機構の解析

(3)学内共同研究

1.	B型およびC型肝炎ウイルスの抗ウイルス剤耐性変異株の解析(感染症学講座)
2.	慢性肝疾患のMac-2 Binding Protein Glycosylation Isomer (M2BPGi)に関する研究(臨床検査医学講座)
3.	甲状腺ホルモンによる甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンへの負の調節機構
4.	甲状腺刺激ホルモン、副腎皮質刺激ホルモンのリニアー・ログな負の調節機構の解析

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

(3)国内での受賞

1.	鈴木勇三、日本呼吸器学会学術奨励賞、2016年4月
2.	鈴木勇三、浜松医科大学同窓会奨励賞、2016年6月
3.	鈴木勇三、日本アレルギー学会学術大会賞、2016年12月
4.	柄山正人、浜松医科大学同窓会奨励賞、2016年6月
5.	長澤真帆 第229回日本内科学会東海地方会若手優秀演題賞 2016年6月26日

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

1.	小林 良正:中日新聞 肝臓の健康講座シリーズ 正しい理解と対応で肝がんを予防しよう. 2016.10.30
2.	小林 良正:FMハロー放送 おはようクリニック「C型肝炎とは」2016.5.2
3.	小林 良正:FMハロー放送 おはようクリニック「C型肝炎の治療について」2016.5.9
4.	小林 良正:FMハロー放送 おはようクリニック「C型肝炎の予防と静岡県患者支援体制について」2016.5.16
5.	小林 良正:浜松ケーブルテレビ C型肝炎受診・受療啓発番組 2016.5

13 その他の業績